

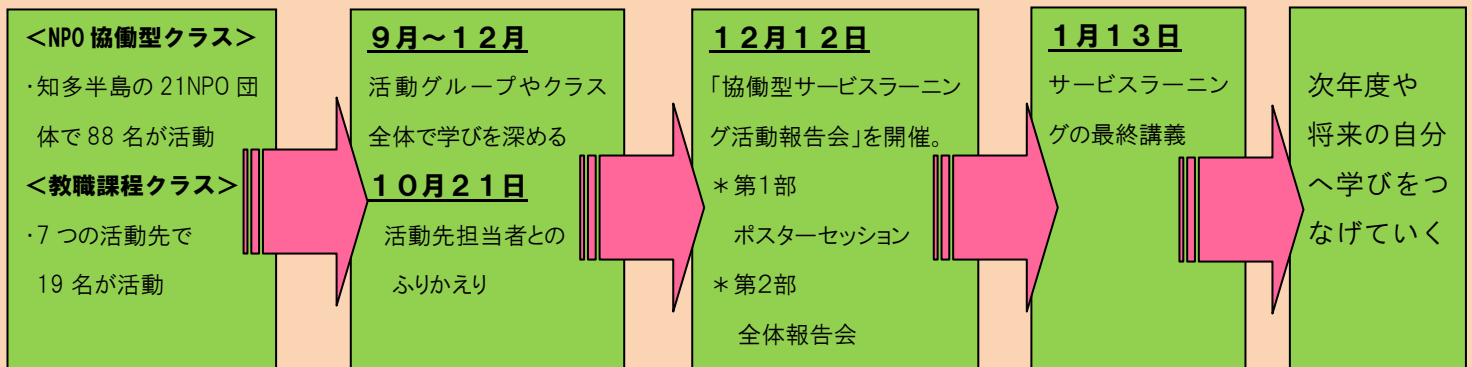
《Topics》

サービスラーニング活動のふりかえり	p.1
協働型サービスラーニング活動報告会の様子	p.2~4
第1部：ポスターセッション	p.2
第2部：全体報告会	p.3~4

～サービスラーニング活動のふりかえり～

9月中旬より後期の授業に入り、それまでに実施してきた活動に対して、ふりかえり（リフレクション）を行ってきました。個人レベル、グループレベル、クラス全体レベルを意識し、個人の活動体験や学びを活動グループやクラス全体に広げ、グループ・クラス全体レベルで課題を共有しながら、学びを深めあってきました。そして最終的には、もう一度自分自身に立ち返り、個人レベルでレポート作成を行うというプロセスで事後学習を進めてきました。

このふりかえりにあたっては、活動先担当者にも大学までお越しいただき、学生の学びや課題を一緒にふりかえる時間をつくっていただきました。また、「研究」という視点を取り入れ、活動体験の考察を進めてきました。



活動先担当者とのふりかえりの様子

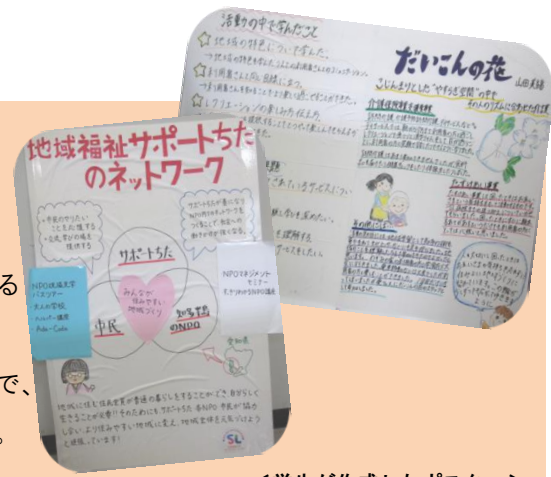


活動をふりかえって新たに気づいた学びや課題を担当者に伝えたり、ふりかえりを行うなかで行き詰っていることへアドバイスをいただきました



～協働型サービスラーニング活動報告会の様子～

サービスラーニングの1年間の集大成として、12月12日（土）に、「協働型サービスラーニング活動報告会」を開催いたしました。学生は、ふりかえりを通して深めてきた活動の学びを、活動先担当者の方や他のサービスラーニングクラスと同級生、次年度サービスラーニングを履修する1年生、教職員や先輩に向けて報告しました。プログラムは2部構成で、第1部はポスターセッション、第2部は全体報告会で、活動を行った全学生が活動や学び、これからの課題について報告を行いました。お忙しい中、お越し下さった活動先の皆さま、ありがとうございました。



＜学生が作成したポスター＞

第1部：ポスターセッション

第1部では、各活動先ごとに2枚のポスターを作成し、活動内容や活動を通して得た学び、気づき、課題、想いなどを報告しました。活動を通して学生たちが得たものは多く、それを限られた時間の中できちんと伝えていくというプレゼン力も試されました。



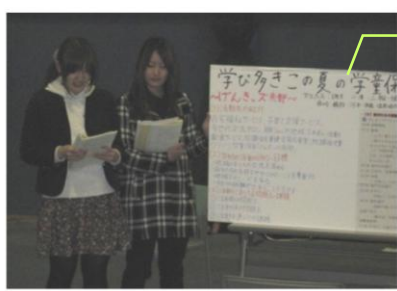
NPOの活動は地域で必要とされて成り立っています。

単純にそれだけのことではありますが、その裏には活動団体の「こうしたい」という思いと、利用者側の「こうしてほしい」という思いが重なっています。そしてこれらの思いが地域全体としてつながることで、意味のある地域活動となっていきます。地域で活動していく本質が今回のサービスラーニングで理解できたと思います。

保護者やNPO、地域の人々との信頼関係、他のNPO法人との連携が、NPOの活動を支えているのだと実感しました。人の想いに寄り添うこと、相手の立場で考える感謝が大切であることを学びました。

活動を通して、NPOの学童保育の必要性や意義について学ぶことができました。今後はそのことをもっと地域に広めていきたいと思います。

決して一方通行的な生きがいがづくりではなく、集まる皆が相互に助け合い触れ合うことで、それぞれの生きがいがいになっていることを実感しました。



* 第2部：全体報告会 *

第2部の全体報告会では、クラスごとに報告を行いました。それぞれの活動先での学びをさらに深めるため、活動を通して感じた疑問や課題を研究テーマに設定し、これまで考えまとめてきたことを報告しあいました。

松下クラス（孝行の会、地域福祉サポートちた、知多地域成年後見センター、ひだまり、らいふ）



- 在宅介護の活動を通して、介護者の心の持ちようによって、介護へのイメージは変わるということを学びました。
- 地域にはいろんな NPO 団体があり、地域のニーズにあった事業が行われていること、そのような NPO 同士をつなげ、地域の中で共に育っていくよう支援している地域福祉サポートちたのような中間支援 NPO の存在意義も学ぶことができました。

村上クラス（ふわり、みんなの家ほっと、もやい）



- 活動で問題、困難だったこと
 - ・メンバー間の連携を取ることが大変でした。
 - ・活動目的が明確になっていないまま活動に入ってしまうことで、取り組みの姿勢も違ったものになってきてしまいます。
- サービスラーニング全体を通しての感想
 - ・活動を通して、自分自身の成長を感じました。来年以降の自分自身につなげていきたいと思います。

石川クラス（エンドゴール、チャレンジド、toピア、菜の花、ぼお）

活動グループごとに研究テーマを設定し、共同研究を進めてきました。

- 小規模多機能型居宅介護について
- 現在の若者の就労状況～社会が求める人材～
- なぜ不登校支援をしている NPO が成り立っているか
- 健常児と障害児の放課後支援の実態



原田クラス（あんだんて、だいこんの花、ネットワーク大府、はっぴいわん大府、ふれあいネットワーク美浜、ベタニアホーム、ゆめじろう、りんりん）



活動を通して出てきた疑問や課題をテーマに、5つの班に分かれて共同研究を行ってきました。

- 言葉を通してのコミュニケーションが苦手な人とのコミュニケーション
- レクリエーションの意義・歴史
- 『居場所』～なぜ、必要になったのか～
- NPOの運営～収入源・法人格・行政・企業の比較～
- NPOと地域の連携～もっと必要とされるNPOへ～

岡クラス（介護福祉従事者の調査班、県立ひいらぎ養護学校班、国際福祉機器展班、子ども・保育現場班、篠島班、特別支援学級班、美浜班、）

●多岐にわたる活動の学びをより深めるため、「私たちの社会変革～サービスラーニングからソーシャルアクションへ～」というテーマで研究および活動を進めてきました。

●社会を変革していくためには、自分自身の自己変革が伴い、自己変革することが社会変革へとつながることを学びました。自分を変革していくために必要な力量を今後も身につけていきたいと思いました。



2009年11月19日に「第2回サービスラーニングフォーラム」を開催しました。ボランティア活動推進国際協議会事務局長のキャスリン・デニス氏をアメリカから招聘し、講演していただきました。アメリカの最新のボランティア事情やサービスラーニングの考え方などについてお話していただきました。



新しい年が幕明けしました。昨年中は大変お世話になりました。本年も、皆さまと共に日本福祉大学のサービスラーニングを進めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。